

## 第 17 回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時: 2023年 3月6日(月)13:00~15:00

2. 場所: Microsoft Teams会議/JAXA東京事務所会議室(B102,B103)

### 3. 出席者

- (1)委員: 永井委員長、山本副委員長、浅島委員、岡町委員、奥村委員、佐宗委員、種家委員、西島委員、丹羽委員、浜崎委員
- (2)JAXA/事務局: 佐々木宏、小川志保、白川正輝、芝大、加藤充康、小林裕希、中西雄太 他

### 4. 議事要旨

ISS運用延長決定を受け、2030年迄の「きぼう」利用事業に関する戦略について、委員の各専門性の観点から長期的展望に立ってご意見を頂き、今後さらに検討を進めることとなった。主な議論及びご意見は以下のとおり。

#### (1)ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況について(報告)

ISS 運用延長、ポスト ISS 議論動向等の国内状況、欧米露及び中国宇宙ステーションに係る動向等について報告した。ポスト ISS での民間主体の自立的運営に関する賛同状況に関するご質問や、企業連携に向けたロードマップと費用規模の提示、組織作りのサポートシステムが重要などのご意見があった。JAXA のポストISSシナリオ検討委託契約に関連し、日本独自モジュール保持と有人輸送の実現に期待するご意見を頂き、利用需要の明確化や予算化が必要等の議論がなされた。

#### (2)2025年以降の「きぼう」利用戦略について(討議)

今後のきぼう利用戦略の改訂(第4版)に向けて、現行の中間評価、および第4版のポスト ISS で目指す姿に向け実現するためのビジョンについて説明し、以下のご意見、討議があった。

- 「ビジョン:ポスト ISS に向けて民間事業者が低軌道利用をリードする」という表現は JAXA/国が関与しない印象であり、表現を工夫する必要がある。また、JAXA の役割を明確にすべき。
- ポスト ISS (2035 年頃)の目指す姿は客観的な評価ができるよう具体的な表現へ見直し、2028-30 年のビジョンはゴールを達成するためのステップとなること分かるように整理されたい。「ビジョン:極めてインパクトの高い歴史に残る成果創出」という表現は、評価に長期スパンを要する点も注意すべき。
- 船内フラグシップミッション募集では、JAXA が大方針を示すこと、柔軟な実施体制の仕組みづくりが重要。さらに、研究者へ訴求するためにも JAXA はより大きな研究予算確保が必要であろう。船外フラグシップミッション募集予定についても状況説明を加えることが望ましい。
- ポスト ISS に向け日本独自の打上げ、「きぼう」後継のスペース確保など、我が国のプレゼンスを打ち出していくよう検討されたい。

#### (3)「きぼう」利用テーマ募集状況(報告)

2022 年度船内科学研究テーマの募集選定結果、および 2025 年度以降の「きぼう」船内での実施を目標にした船内科学利用テーマ募集の実施方針について報告し、以下のご意見があった。

- 個別のテーマ募集ではなく、上位プログラムの下に個別テーマを実施する等の仕組みの検討や、有望研究者の開拓を積極的に進め、きぼう利用で研究成果を拡大する働きかけが必要。その際は、研究者へ軌道上での制約や実施体制等についての事前説明が重要で、有望研究者への訴求は工夫が必要である。
- これまで着実に成果を創出しており、他極との競争のなかで、JAXA の特徴を出して前に進めて行くことが非常に重要である。

#### (4)きぼう利用のプロモーション活動について(報告)

きぼう利用シンポジウム 2023 や国際的な ISS/きぼう利用成果とりまとめ状況、継続的な情報発信等について報告がなされた。

以上